續ひざくり毛十二編　下

へ遠13
1164
48

へ13
1164
48

大尾宮坂
所藏

大野
宮坂盛
藏書

續膝栗毛十二編

助郷馬の噂〳〵詳しきまゝ

てあきらでゝるよ。富士さま。其ほか多くの人。駕籠もいてゞきてめくるが。きこハたゝうゝ。ぜも。駕の噂曲るゝれば。まゝぐひ。あうゝて。ゝよかゝゝ。ゝ。ゝ。

出会ひて
藪くぐりもせず
蔦ふみ
て
梅の
はちみつ
とまりて
るく
仲加茂女

ゐてまきとまい入まぐさでもるさるうそでしん根をつあさ〜。ふまるとこるもできませうう。まげ髪結をよびまつろ〜ませう〜ッリヤあぐらうござうやをうづまゐる。このあるゐじゃアおさまあう孫入うう。ごよぞ〜てんものでどざうやをトはいあるしのの女下さよりふつけかるゐひとコレく三さどん。おあがちゑ〜まけがあんで。おつうがアしあのことく〜ど。孫をつめていうまをゆうう。ちゑんとおとてあげてくまさい〜ハイかしとまうしまし〜とトゆハのうこうくまうう。かるのゆうまをとんて

コリヤひどく孫〜おきうるさうことをしやアるてもうつまをせぬ入髪をかしるさうまをゆうるうあるこのこどもかすこかあこのうるのの。あうきやアトろてへゆけばかるゐるどくうるやきうがきどうくしてつけどるのをけがとこらくてうるきうう。とんるとこでよのどざうまをゆうしくきゐる。いきるあるゐふ出まこ。そをとんつのてうるせ人トはいかくゐひ。ゆハのあるところ〜コリヤアおまんさゐ。さどめ〜うのつけどるのまげをつけるう〜コリヤいろどしでおとうとおきうまを。ゐるさんのでおるづうア

そのさいごにはどこにもきえる。あらさえのいろどころ
ぞ。そのあとへひつとるし。かくれさろうと
出来まし。ドレ〳〵トあるるを。ヲイヤとのがきめうく
コリヤごめん。あちらこちらのあらぶ。ヲイさけさえがし
ろへもいてみるもめづらしい。かまのまと三ちがくと。ヲイさるさる
まへつけまし。さぶまうつけるとともあへとうご
うう。ヒアクラヘうしろへまげてあきるさうませ
ちんごとうとうぶきやきごとのぞ。ちんさうまつけ

るとうてえんるせへ。くさもの。るとうてあげまさう
トまうこちんうまつけ。さと是ぞ。とうとでよう〳〵。コリヤ大えるおせへ
トせうまへ出てまるとかまひ。サアく。あるるのきくぐでえと。
いぐぎきて。りまてやくと。やどヤ
出うこと。きよへトいそぐきて。コリヤおそまろでさぐう
まう〳〵さまう。るう。市きぐんよく。ヲイおせへまるう
ゆう〳〵トやうへとうとうちのでいぐ。きこと八ぶだんろうせとかうう
とのこの近至のくとくぐ。三人ぐきそのあ。ゆくまどのきくまうまこう。
ひとうのあやぢのたまーやくときけが。その内あやぢ。ヒ〳〵やとのてまるる
まで。弥ろうとうぞ。ふてとうまるいが。きんぐ〳〵

うのくぼ。あらそひもとめることゝは、はまいごまつま
きこゝ。こゝごのもつの。庄屋ごの。屋敷ふ。今度へ
夢むふ。おらうえんりのごと。まつ山いるうさる。頼
げゝこいのゝこゝ。その庄利生がありて。ぷゝ
あるゝて。ゝゝとあるひるさい。その〳〵きやアえん白も。
あらうえんとあるこゝ〳〵ア。ふゝとろく粉るをいまこゝま
るいかのへひとゝるゝ。ろゝが。姓貸の拒十るんざア。
のちみやアくゝひるゝて。ぷん気をゝるゝうゝてゝ粉

子ゝ。ゝゝき合あうゝゝ。ゝゝ。ゝゝのお
うげよあげうゝ。あゝがうゝ。ゝゝきのよ松山へお礼ま
まゝゝて。今うえくゝ。ア仕合ゝ。
ア。稼ゝうゝ庄利生がるえくゝまやアゝ。ことゝゝ。
新田の丹七が。ゝゝのゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝひとゝた川藏へゝゝて。ゝ寿ま。松ゝへまゝつゝゝゝ
ゝゝへゝゝのゝゝゝゝ。一生ゝゝまゝとまゝ。ゝ度の
ゝゝゝゝ

りのごろ。コリヤ　りよあるゆやァ。ちぐはあんまいと。それ
とおてよ。銭谷で豆（まめ）と又俵買（どひやうく）てぐつこグナニ稲
荷さきぐごろぐ。まちぐさろ赤ころ仕（ぐ）
ゆとゆとこえるといろ。あるァ年（ねん）寄のとこァめけて
ある
花ひとりもころるいでくつころ。ぐらつるるい
いるろさるも。あてゆやァるるいり（あぢ）リリヤア
あるるいたづぐァ。丹（え）七の三（あぢ）ゆやァ。あとこもた
いりてあるぐとイこァ去年（きやん）の八月。ろこ〜やア

るいうまうもそのとろ（ぐざ）牛（ある）こぐ馬ァ。三（ある）匹（ぢ）
ろこここァ。おぐくとぬるづ〜ァ（つれの男）岩年の八月ま。
こりこここァ　ぎりてゆるが。あまこりかまこ家。ぎてる
べりる。おるろてのこんどァり〜（あぢ）きひ（ぢ）ろもおるい
十二　二度あるべり。ぐぐもひろるいでトいろこ（今ひとりのつまこの男）
ヘイヤそみもいろまるい。ロ〜二度ろここぐあつきゆァ
捕川（あけがハ）の方ハぐむじん。ロ〜ごりの村の法（ほうん）ごの
のむじんと一年ま二家。ろここぐあつきゆァト

きくと
田螺の
あまじ
ものみ
て雑
宮府中
挑壷

居なるひて
谷
立ちん
小田
蛙
同丘尾
梧風

ぜんぜーとおと
よろきてゆるし　ゆモこ　おめくぐこ　ア　蕣弓さる　と　宣信郎

と　ゆ　人　さぶ。　ゆ　わど。　おりぐて　人　ゆ　ゆ　さる　ゆ　ぐ　ぐ　ぎ

ゆ　や　と。　ゆ　て　も　ゆ　ん　ゆ　ゆ　て　ど　ぐ　ゆ　や　と　ゆ　ゆ。　ぜ　ま　人

ゆ　ぎ　ぐ　ゆ　ゆ　ゆ　て。　お　孫　ぐ　ひ　ゆ　や　と　ゆ　ゆ。　ぐ　ゆ　ぞ　さ　ゆ

ぐ。　ゆ　ぐ　ぐ　ゆ　ち　の　ゆ　ち　で。　地　面　梅　或　ゆ　ゆ　ん　ゆ　ゆ　ゆ　て。

ゆ　ゆ　で　ゆ　ゆ　ゆ

白毫とるが生とだうの惣昌へ

ちうもとや　まうし　桶川の宿

との者くゆて、子どもたちがつきまくひて、ろうそくさろぐらてをとれば、
一人の男、よこれるうあんせめくくまうくいろのひしく
おとろうときてふるうるこれざーとさしーくわふてんぐのめんとうぐ。天王しく
うるとうる。ぐんでんとうぐそゆくくべうこ人おるーふゆて、ひくくづ男
かうくくうるれて、あくくのやどゆとちおそろうとものぜゆと天王そやせやうま
むらふぬてんぐのめんとかぶうくくに男やとてふまぎとうち天王そやせやうま
どもトいあくこちぐのうどもうくくうとそうくて子どもそやせやうどもーくちまのとーあうくくやく

天王てんとうさるるハ子てんとうさるるハ天王さやさとぐおさとれ子そや

天王さとぐおさとれ子さけいるとおさとれ子さけいるとおさとれ

天王いくぐいやろう子いくぐいやろう天王まいてうくやろぐ子まいの

天王てうくやろぐ子さあまくくくぐ。白くくあしの紙とちいさくきろうろ。まりうの

ふぐとまれちくうとくるぐもこうるくくまくくひてひらふ内天王あつぎ

とうりて。おどうるぐくそこ男とうくくふハのあとふむしく

天王いてくくく。との天狗めぬとーやァうる　トまうとこうとうとうとうるハぐ

天王サァというどるぐ子さあこいとどもぬ天王とくふぬくやろうぐ

子たとふぬくふやろうぐ天王めくくふアきこむ子ためくくふアきこむ

天王まくくふんでやろう子たまくくふんでやろう天王あくくのあーくと

トあてとるる。きくくハくくくくて。ゆくくくくくくくて。ゆくくくくくくくて。

天王のおくくくくくくく

あいさつもゝ後人くせよ。まつとゝんでやらうゝとア。ふて人
やうぐ〳〵天王ふらうもやうもうゝるゐ。この住まをあるく
かのよ。あゝのゐいやいひとうもるゐ。そをとゞく伊山
るあゝぐかのとゝふむとるもぶるゐ。まるとゝもあるづゝア。
やうゐゝいとゝとゝふおゝとゝぐ〳〵小八ヤこのやろうめぶを伊ゐ
とゝとゝやうゝやアゞ。ゝかぶろうゝぐんぐのめんとゝひき
きゝハのあるゐとかきむゝる。こゐとゝとんでこのゐゐのあろうも。伊伊ゐも
ゝゝやとゝうて。ゐ人とゝるぐゝ。ぐゝゝのとゝふ引ゐける。てんゐうのおとゝこ
〳〵とゝ伊ゝへこゝく。天狗の面の皇とひきむゝゝやゝやアゞ伊

て。そゐるゞりげてゞこゝ人ゐうゐんで去まゝこゝャイそゐるを
つけてよとゝせちやア。トらゐるゐきゞうき。小八もあゝまゝぐゐを
そゝゝきゝゐうゝ〳〵小八おゝゝのあゐゐゞゐるゐゝゝャイそゐ
ゝゝゐるゐれゞ〳〵おゝゝのあゐゐゞゐるゐゝゝャイそゐ
ちの皇よゐう。おゝとゞあゐゐをかきむゝゝやゝやアゞて。
ごゝ人やゐゝ〳〵天王十二あゐゐゞゐい。〳〵そゝとゞゞあゐゞやア
ゐいゐ〳〵伊ゝあゐゐいあゐゞゞとのあゐゐへゐ伊つけて
あいゐつけゞゐゝのまけゞゐゐくゐうゝ〳〵天王ゝやゐちよゐう。
とうちの虜夷乃をゞ。天狗のめんのあゐゐゞりげ

ちやア。姫出るゝ〳〵ゐい〳〵コノぐるゝぐるゝめ。面よあらるゝぐ
あるゝのゝ〳〵イヤ天王あゝるゝぐやアるいゑ。狐のまけゞるく
るつゝ〳〵おゝ〳〵も。あゝるゝの鼻とゝもゞゞゝゝ。不昏るゝ
るゝ〳〵狐人〳〵トまゝゝやゞつゝゝさゞひよ狐ぎあゝとゞゝ〳〵
あゝ芝ゞゞ狐ゞゝ芝ゞゞゝゝとひゝゝて。
るゝゝるゝゞ〳〵ゐいめ人まゝ〳〵ゐつけゞゞゝとゞゝ人ゝあつゝとゝゝしそ
つまゝ〳〵狐へトゝゝやゞひゝゝあゝるゝとつゝゝゝゝゝゝゞゝゝゝゝ上尾の
芝ゝゝとゝあゝゝゝゞゝゝゝゝゝゝ

白隠賀東江亭

ことをうゝゑとゞハハ　まんを髪のゝあつきして。形
のゝうけゝゝこゝ　きうゝ夢いとんひゝさをァあうゞゝ人
ゝゝうゞゝをとうゝとゆんゞァうゝゝゝふゝうゝゑんをの
かうゝよ。浄衣のゝきて。おれまうゝいくのゞゞゝァ。
コリヤハアそのゝゝ紀。きうゝゝゝうんをのまげぶゝゞゞうゝ。
ゞゝんゞゝゝをあ。おさめゞいゝ。あうゝてのゝんゞァかし
ゝゝゝふゝうゝとおうゝとのゝさ。サント　きゝゝハゝをめ人のあ
ゝをへてゝゞいゝのゞ。あるゞ。ハウ　とんひゝさんゝのまげと

ひゝゝ夢ゝ。ゝんをゝさうゝとゝァゞきめ人ゝこの男ゞ
ゝきうゝゝゞ。きるふあゝをのまげゝゝゝさゝゝゝをゝゝい
まうゝゝゝかゝいゝのゞゞゞゞゞゞゞゝゝゝゝリヤハアゝゝ
ろゝゝ。ゝゝゝゞけるをへうんゞァゝゝゝてゝゞをいゝう型
まのゝをゞるいちやゝサァ　おゝゝゝゝ

ばつまり孫とととのよおらうのあるなへまげどうろ
ろうろちやアおうーまろうーいやいさ禁のあるなも。
めづらしてようろうろうだうとらよコウト大ごぶこん
きがきろまど根杏れごーよろうさーー牛田れいきを
ぎろ。イヤーとのかーあさだ孫ろ志よふ代ハいろうぐ
とのハア崩の志つぶのまるのごとやをくーそやり
まもとごいが。りやハア百みけもくまさろーあい。そも
志やアさんくーとの志ろうのい経松ものごうーー。ひけ

ものぐ。百ようまけるぐりートせる百文おてまげとろひろう。
まれまて。ごろごうう孫ーコリヤハアやまいかんでくぐーア
志だり。あるなくろはけ。志ろうとたち
とろのとーろまーまろと志えでくまだよろとアすート
門ぐそろ一人来ろを。コレ生がろうさるまげの孫がで
号よりまを。よりて。ヒ
きーぐろ所買ていろせんます。トいふとぐそろ。イヤ悪
ある志でー
俗へつるよ。娶とゆうことがるいうーー。まげいろうませぬ。
そ生ーとも。俗田のろげるーう。ふろとうろいうものが
ある久生ごーー。ト。いれまてとと。
ヤきーとぎる。ハア志えぶうさるぐアすート

とんひ〜〜ひきをどる。それよりふたりはだくろう衣でんでんらふらるるとうよ
めい〜もの名ぐらきさるやあり。サようてるるものづ、ひきうけのむ〜〜て

かの和てきく所の名さん物語りの

うま〜〜くと酒の評判

かく〜て上る町より出るとうつとさだて大宮の社へ
いるるこそふたうや権現のやしろあり

高内る格別利生あるるん

神のめぐみよ大宮の町

そなとよく。生だうの事とあるる浦和の宿ようきうる

とうろうのと積るまつ祝しの義人の

おもてうる和の宿のあぎうひ

はこ義〜〜の白クバ赤て。ものふよりまる男
男。ふ〜〜〜

るーおめ〳〵ろーぐ　世間のさまとどやろ。ソリヤナ　きこさん
ひさ　ひさーぶりぢよ。ゆふーろうよりる世入ヨヤ　小生も
ろーや
生と者でめでろい。サアーくとせーへべくトさるよろもてつまるく
ゆきそれがむさころ　サアーくおきるくぐーこ。コリヤーくお稲荷
ぐよーさヤイぐまでもまやーくとらーくとてがおやどろ。
ろーれ者ぐまでとどうけよくとおろとがひさーがうど。
おめへのことろくるつてそろーやせう。ウふハそよさ。
そーてあーくゆつろろ者どらうと者せろトとのうち
十三位の女

そーめくゆとそてもてるとふろ　女ぞう
あーとあーひあどがぐどうらできろて　ヨヤーくおうくでがへ
まのきとうきてこさんも西一ゆろ。サアーくもくへトあんるらいて。
ろうぐーけるぐーきろられゆくいろろいとの方ふくらふとのしまくの
りのゆて。ひさーくろどくらで。ふてろとるどやよいろるあるりが。
あやのびやーよ。ろぐと者まひて。ろくくりとーおやの者ろだいさこ
どうやゆくまぐよそのあくとそそぐくまるとえくろ。女ぐうちやと
そぐこぐんとうちまろ。あいて　さて
ゆくとたらろくりできろて
ゆーおめくぐろひくいろこあとでかくつるゆぐーくひ。ろくの
るぐやよるこあんまめぐそ仕合るやつぐとこぐ世とろ
ひよろろ同ぐあいこうめぐーりくあんまふよびとも

虹紙巻
のゝ
ゆうゝ
ふゝ
春の日丹
備田山
向陽舎
喜毛
ゆ出安
風の青折
雲ま
ふ義
多毛る
見毛る
長原さま
かまくらの
幕を
夷の
陣
播州高砂
浦松早出

ゐし。やうふ者夢ハ吉〳〵ぢ。用があいてゐゐ。ごがでさうゐ
いや〳〵。身上吉まつて。ごと人ういつて吉ます。そ仕人者吉の
男がこ〳〵てきこゝろけがとらつゐ人ようのまゝて。も得人
飛鳥ふ。いつときうでくゝぎ。も松のとこのとしぬけ親父ハ。
こゝろうゝのゆうこと。久ゐることゝて。ものこと吉がとのごろ
きけば。浮成で天狗さゐの者ハるつてゐるといふ
こと。そゝをふ者人吉ハ。天狗二ハひつこゝてゆくゝ。イヤ
なや。かゐうことゝぐゝけがゐ人ぐハ。ハ者でめでゝハ。ホンニ

きこゝこゝハ。ゐぜたもまハとゝてゐゐ。づうでも吉ゐう
張 づう
イヤ。ハ。痛もゆも〳〵。ハ人ぐ。あを。ゆいゐ〳〵。ゐけの
あゐこゝき。十二張 ゐけがあゐ。ぐゝこゝこゝで。ヨノ。ものち
まハのゆふんゐ。ア張 あけ。まハの助ゐいぐゃア。ハ人。ゆけ
ゐ〳〵があきハ〳〵ア。ちハきん。ハ。ゆもかくきこゝア。ハ人。
たもちまハの化と。あゐハ〳〵そ。ハきゃ。ト。ゆゐハと。ゐうこきゐこと
張 ヲヤ〳〵ぐゝ〳〵ぐゝのぐ。まけがぐ。ハ人の。ハ。イヤ。ハ。つけこまげが
あゐきがぐ。張 〳〵。そゝこ〳〵。ゆきゐぐびみこハいてゐ〳〵ア。

ばかりごとでは茶釜へうごんけのたるがさらことにうごく。
ふやごしく。あるのまげのをんなもめづらしいッヤごと
きとのごんばるせべるごいとごが。ぶハうるまごうう。あと
でのとこふゝやせうばんとるもコリヤア。いろごとごるる。それは
ばかりさんおめんかるごんばるとさんそくいこことがあるよ
ばかりや耳よりうる。ごふゝとうけでバイヤおめんとよく。ひる
きあゝと。我本金の見物どのがゝ信列へらめてゆうごと。
おそみの晩ゝのところく。さるりるまうとが。えいとまるの行法
で。おとのそ又茶かどの山と買まとこうつまでそのホを
きう出まとよういて。ごが大多らうと。おめんのうをとうるを
ゆゝこゝアとんるゝ。ばかうがあるとあのおゝこべさけ
うゝのごうるとごとんるとゝあれつうるまる男ごまゆ当り
てうるべいつがごとあるしてあるゆゝとこひゝがて
いゝまとゝう。おめんきごくうるとあるよゆう考う。考夏
の筋ゲできまうう。つゝゲヤア考人ばアるれべつとと
きうゝまごようとごとがある。ゝおいうがせ系の

大金どの。病気のもりが。おこまへのぐうてぃけおらぐ考る
ちとけるヲヤそもそもめでたい。おらがァ店賃のかた
ぢうう考ァ拾ぺいろ〳〵の借金ぐあつこぐやるもしん
種類化ろどくくつころる。まこいちぢめらもやうとおりう
とよそもそも。ようようもいまこ今度はあの所内で。
ちん丼屋の店とうるせへ。あの大金考るハ。汚のこ
のあろる人で。はいあらしく。也素とそるとしるぐ。
ア今までの店ちハこるる。実体いかせぐやいこだうで。
おうろくるいぐふぐ汚ぐものんで。考のもとのめもへ人ま。
くるをうこそ。店賃ろハおくづけてもかるハ也ちと
そこらくそそけぐのつきりのぐ陽気でうくそん
るくるぐぐもあいてまというもとうそそ人店と
かりるもへヲヤうくもぐが考うその大金さるハ怪る
人ろ探ヲヤうこぐ情合ぐ。おめへが情合ま。別よ
ろ考る情へ人とるゆやァおよび拾へぐそのろうよ。地代
店賃ひきづこむく。考ろもうろそるうくるヲヤ

ごもごく〜イヤ地ゞ〜でもさへそこのおめくの世人ゆや
るゝ孫人ごとゝ〜ゆ三そふぐろけのゞ〜トゆ四ろとよろ世ゝろ
すぐゝ　ゝこりやア此退屋でどぐろまもとう。あゆがこゝろまゝ〜こゝあゝ
るさろうませんゝ〜ゆどゝくゆどごゝ人イヤゝろゝろゝる。
ゝぞゝゝ〜ゝるゝゝ〜ゝもゝゝるゝ世人ト世てきこゝハふゝろ
ゝこのまゝきめとゝぎまてゆどゝの人まこゝくゝて孫でゝまきゆゝろま
づきゝけるゝぐゝゝよゝあのゝゝてあゝゝしゝゝまけとゆゝゝゝくゝゝふゝろゝのきゝゆの
ゆゝぐけ孫一あゝゝとゝゝく〜ゝこりゆ大ゝゝゝゝゝとゝゆゝゝゝゝ
とゝる孫一あゝゝとゝゝく〜ゝこりゆ大ゝゝゝゝゝとゝゆゝゝゝゝ
きゝろうて孫ゝゝゝ〜ゝぐゝるゝゝゝゝゝ

酒
墨舎
一得

伐木亭
一車

祇とろびやる丞サぎうゝゝるゆもおさうるへどざうませぬゞ。
ぎけさるときまゝ

ひとりあぐうませゝとるえはちをうぐ祇かゝゆも
おうるひるさるるゝひさゝぐうでちゝくおとどゝるゝ
さうませトあいてゆくとい
夢きうて ゝサアゝをでめるせえゝニアぎ
めゝうゝゝドレおうんるるさううトひとうりて祇ゝゝはさまと
とれうきいつもまゝつづくく
さぐれと
まゝて ゝぐれよおめゝぐゝもぐゝくゝると今の枝本
生生てるんでもひとき夢うぎいめ。あうゝくとゝゝ
ものぐうゝ。祇祇さんおめゝさトいゝサぎうぐあるぐきえ

るゝくゝえ
イヤきまへあるうまぐうちぐ祇ゝかのとゝハテ
そるえゝるぐゝくゝるとぎれよ出まるまぐゝその女と
いうゝうゝぐ姫でお大名やゝゝきよひさゝゝくゝつとあると
うゝゝゝ考も考うゝあるよゝゝてあやうちの祇ぐひ
あゝぐゝふで考うとのるいとうやきいきとうるゝぐん
るとところでもいうゝゝ。ゝうゝいとゝゝとゝゝぐはあいぐ
うゝゝゝゝの丞ゝ返るよまてぬまとぐゝハ世ゝ丞ゝで。
やひさうも。お無よ。できるし。尚ゝもかうふ。ゆも

のぞこうるいぐぞよぞ小ぢ老ぢ おーとこぐ。ちちとい
との孫ぐひ。そまじは親のうちへ上絵の異宿生で。
どぎ
牛房のちいが川のところぐうう。孫んぢうぢいがうと。
まるへ。あやざうう。つぐけまとしよう。ぐやアわ人
人〜イヤそうへおかうろきをぐさうきをどの
うう。ちまとんうう。巻紙よいあ孫さるがうへとぐ。
その老うものう孫〜そうぐとも〜それへさうそくる。
お伝がきめ人の〜〜まぐやどるぐのくせなう
〜やうるしい。ほめへくちをきくおやア。および孫へ
〜老うぐ。今までは火鉢よりあうとものぐうう。町方
のあ、ぐ世常ゆへちとくむくまいうまどそおさへ
おめへ人孫ぐるう〜イヤモ老ぐうちのさるでいこ〜ぐ
こるるう〜〜〜ぐでうせへよりきがんぐへ〜ちきぐんで
るくで。ぐよさるうものぐ。さぐめ〜老めるけくぐバ。ア
ぐふもとうへうを孫へ〜そんるく。まぐバ。きまうこと
うようのぐ〜とてうのとくふ。まぐ老くぐ。おめふかて

ら孫入うゝ。ちまつとゝぺよびるせへるゝイヤいるよ。
さうるとゝゝて来やせうゝコリヤゝこびびがきてゝ。ちち
まゝをゝせゆやアるゝ孫入トあさるのまげをゝうゝ結ひゝまつゝ死
ゆて来びる。ゝ中よこゝはふるれこゝ。
くわゝ。ゝろちやくちやのゝくゝあぎこのゝうぐだろゝとゝうのゆうる目つ死ゝて。ゆび
んさゝ紀のまびる女。ゝ名ぢうゝ。まゝこをして。ゆゝさゝるのゝちゝとゝうちいで。
ゝぎるゝこもゝゝゆゝふゝお出るさうゝまゝゝさゝゝアイゝゝ。コリヤアゝ古淡
ゝぎ。ゝゝゝゝゝそゝふるゝ出ちゝそうぐ孫ゝぎゝ死ゝとのひゝゝと石皿
を。そのゝお出ゝゝゝあげゝゝゝゝゝのゝぐゝちゝまつゝゝこゝぐゝよんで
ゝんるゝ世ゝゝゝゝイヤゝゝゝゝゝ

おかねと孫次郎。孫次さん。あやうかのごろ〳〵ゆるし〳〵ト
あごをうける。孫次郎あんまりさるぬしそこのあをめの。あさめとも見うれや。
くれつきあたりさめてさけもありろうごろ〳〵めけのこるぬへ。
かうてようこそしをよびらつゆくと。孫次郎ナントト
むをあもまりちるれば。おるごくうちとろてゆくあふ
つまり孫人じやア孫人う。あんるふるきるきろかのとこぐ
けよとこの。あやぢも。あんまうくとびまやアグる
ヤイヤそふいひるさるる。おめくごとりてあまりおまえ
出さるとこ。おとこじやア孫人う。必美ヨと鶏ふこぢ
ぐこ。住うあくこきアまふうごう〳〵。きめて去ますぐいくの。

孫次郎だうといふる。アリヤあんるぐ。だけりめごう。きるもし〳〵
孫人りめを。ヤイヤそんるよ。きるをんじやア孫。さん
でもおめくよ。あてがそふとらかぺよく〳〵ぐう。と孫人
きろうりのであろうう。りりてゆるが。大がる後生ふるる
でおろうト。ひそくるるしてゆるが。死ぬがうきくて。ヤヤ。酒いごふでござう
まきこ。おがう。まり〳〵。ふうちのそるしでき。まり〳〵こが。
るんでも。あこがひよきを。きろめてゆる中ごう。伏
義るくて。よりめござうまきこそるついて。孫次さんへ

おきのどくなことゞ出来ましてこりやアるわゞく
[illegible]ろいものといふものハこゝ岩めのるいかのでコリヤ
おとろくやきいごけ。るゆもうもあけをけよやまも
をゞ。今あのまさとへ出てうゝ。きがかゝつることゝくし。
あんまりこゝ〜ゞうあハぬうゝ。ちうともとういきこハ
さんのところへるゝ。らきられとやまをゞコリヤアるゆも。
浦沢さんとゞきらんのゞやアるいゞがとういめゞけよ。
そこゞうんきゞとまううめでどゞうまをゞうちでも
きのどくゞ浦沢さんのまきまくそんることゝいをを
るいとやまをゞうゝ。ゞこゝ。野蒜(ヤビ)るるんぐゞやアる
ゞこゝゞうちあけてゞかをるゝいとゝまをうゝ。狼化(ろうぶん)の
後代(こうだい)よ。このををゞ出あ後中まをゞが。ナト浦沢さんゞお
めゝのおとろらきゝハ(浦沢)イヤモををゝとゞいゞ。ゞうちを
あゝやうゝハすゞををゝ。ゞるゝのゞまをゝハゞいゝる
るゆも。遣(そうまる)をゝいゝ。ゞゝゝ。ゞゝゝのとゝ英(うる)へゝ
ゝゝさをゞのゞ。ゝりゃ浦沢さんゝ。ゞゝゝゞゝゞゝゞゝゞゝゞゝ

そのうへ　おうさまんどんや　まくら　ぶ　ぐ　ぐ　と　人　ぐ　ぶ
ぐ　ま　や　せ　う　ぐ　ま　ま　ま

たゞさんろう。そゝイおいらゝぐどぷらみかのぐゝぷ。るふも
いさくさん孫人のさゝ（ざうう）ヒア。そんるゝそのうすうよぷきま
至といこゝませうトいふまそ（ゆく）コリャらぷ。てうさらがうる
きゝまとのぐぷきさうあんるすのでもぷうえんとみちゝく。
ふぐのおちとすのとぐまこひうとうゝまとゝちもやア。殘
百も。あうとゝこゝとうろうちぐきうゝあんまうぷのう
くも孫人うう。かるハ孫人（孫次）おらゝも今。ゑめ人のらうとお
るぐとゝぐ。あゝいまのきあゝハおさうゝぐぐぷ。ヒアまと人ぢん

るうゝハ孫人も。損（そん）ぐうゝるハ（孫次）ゝまと人ぢんもおゝいゝゝト
はんきうて（孫次）ゝりみあやまとゝるきうませ。ゝあゝとゝうませうト
そとゝうとうゝぐけ。よぎぶとんをもちきうゝ
ゝことをうゝてやくゝとぎやゝあうハ孫ところぐ（孫次）ゝそみうゝても今まで
やゝきゝみぬて。まぐいうゝとうのおむゝくとうみのぐうゝぷん
ぢゝぐでも孫人の（ゆく）ゝヒて。まきさうそうみきくゝとゝきとゝしハむ
うもちぐうるいまうぐゝト孫るぐうゝぐうゝるゝゝ。ゝ合つゝうゝるゝるゝ。
うておうゝとさハぐゝく。ゝとあれゝいうゝとゝ孫うゝゝしぐ。きぐうゝくゝゝとぎふやう
因さめておぐゝぐうんとあうみあへ（ざう）ぐうゝとうゝ。孫ゝゝとゝよ。孫ゝゝやゝ
おいぐゝ人（孫）ゝモゝかのまそゝの（ざう）ヨヤ。まぐおきて

そのことでさぶぎが出ますることでく
イヤあのるがうちの馬士ことがまるくく
きけばるうこめとばおいぐうぐうが出てかることがとでは
どざうままをがうちだんそんうとをさうぎきうせ
ぬうくそなこでおめくまおまるをとしてあのるがをいら
きうせままとしらやとがいうをきらものぐうぐうが沢さん
よくうぶんさんのかうくとらぐうとがあるかせ
どがちうくも。お侍の出来給人やとのまうこと。

あがたうそなこでも。ぶんさんはきまんがとかのぐうう。
まうこ。沢さんは出ようのかんのとをぐうう
くうがあがちのまどとこ。ぐうがうがうきまくうそな
ようるうくとりのぐうくうがそなこで馬うあくいひあ
ばせてうけをちーくとあるをしまをぐうおきの
ぐくうるとくうがおめくぐうがふくくのきのとさが
きこやであがうくうくらいひまくくと人登仏の
かけぐくうけてうしてあきまくくとこそれる

ながき
夜
すがら
こゑの
やうな
銭の
音の
あるじよ
まくの
さゝやき
旅をいそぐ女
スルガ府中
若気速丸

ふるがるぐらぐ。むすこめがらものがていろこまあてだんん
ませぬが。今ようぐ孫出しまとうー。てアうあいまど
とあやまこうるさうませトいひそでいそぐーそうまこ
もく。孫ちんあまれそて
孫こりやくまこ八ー八ーヲツトこうきんこく。孫次さん
大ぢまあちうあこーの孫そのちうあこいいが。
こいえ
大変ものまうが。まめくあこがきものこ。るうこ
めがりていうこと孫やいうくあかあこ
あきうめうせ。きうぐ孫くあんいけるーー孫女ぬ。

きちき出さるのこうきまで。ひんここ、れ
こうかんよくくの用果のつくだ。ナント注出ろう
孫くぐやア孫くくイヤかふ。それのまうあへせご。
ごうこ。ぐひの孫くさいうくくトあうへぐんまうー
るげこぐーて
馬士
のま入まこを せーを出うぐーて
あー入まこまちーー永とそこやきー
その孫ハそのまくあやーうるが。あうあこ。あきいでんんがていう
方ぢこくんんむこめのあく。ろこをさがこーかぬうーこいまぐこうくうぐ
サがうふうくきのどくぐて方ぢこくんのきがくこをこういぐーこうこく
ちきうせさるくぐふうびるやぬどんうこるくいこうんごひんこをこうく

ゆ〜て。その前をこちらへでさうるが。今あり人がおうく。こちらくこちら
るぶさこそ。でるまふ。ちやくもちらぶのこもくふいこうて

白紀うへる 篠 人をふきこおろろ ゆを

風のきを出さと 日蔵の 驛

この きゆくゆて。らづこやとりうる。ゆうちやのめのぶつ。あるふ。やうろ
こちよう。きこくしてぬくろむろ。ゆるさかのうこまてうりさのあうく。
ざいかくやのだんこうこふ。陸 ゆやあ。生うこ清さんうづもしく人
やきこうてぬくろをれつけて。ヨヤ

陸
ヤア。浦沢くうどのう。今おろ人里うコリヤめでうい。こ紀ふ
里船が。おちう孫てぬくふる。人うこ。佐列の山を。
入れしておちこ白へこ。我本きく出くりよ。大ぜい人が

いる。ぞろぞきさうるが。たくうくうくう

市きげんよりてあさうまの一やうてめで
たくあひませう　トちやとくとくとく

書林

大坂心齋橋唐物町　村田屋治郎兵衛

同　河内屋太助

同　岡田屋嘉七

和泉屋市兵衛板

諸國

野州宇都宮　荒物屋伊右工門

會津若松　齋藤八四郎

奥州仙臺　伊勢屋半右工門

同　萱原屋安兵衛

越後水原　小田島儀兵衛

上州高崎　澤本屋要藏

信州松本　高見屋甚左工門

加州金澤　近岡屋太兵衛

越前福井　帶屋喜八

尾州名古屋　永樂屋東四郎

諸國書林

勢州津	山形屋傳二工門
紀州若山	坂本屋喜一郎
阿波德島	天満屋武兵衛
土州高知	田村屋松治郎
備中倉鋪	大田屋六藏
雲州松江	尼ヶ崎屋喜三右工門
長門萩	山城屋彦八
肥前佐賀	紙屋惣右工門
肥後熊本	小嶋屋儀八
薩州鹿兒島	山崎屋助治郎

京都書林

三条通升屋町	出雲寺文治郎
寺町通松原下ル	勝村治右工門
姉小路麩屋町	俵屋清兵衛
〃祇橋南一丁目	敦賀屋九兵衛
同通安堂寺町	秋田屋太右工門
同北久太郎町	河内屋喜兵衛
同北久宝寺町	河内屋源七郎
同安土町	河内屋和助
同本町	河内屋藤兵衛
同博労町	河内屋茂兵衛

大坂書林

東都

日本橋通二丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同　須原屋新兵衛
同　三丁目　須原屋佐助
芝神明前　岡田屋嘉七
同　和泉屋吉兵衛
同　和泉屋市兵衛
大傳馬町三丁目　丁子屋平兵衛
通油町　藤岡屋慶治郎
馬喰町二丁目　山口屋藤兵衛

書林

東都

馬喰町二丁目　森屋治兵衛
同　菊屋幸三郎
横山町二丁目　出雲寺万治郎
同　二丁目　和泉屋金右エ門
淺草茅町　須原屋伊八
下谷仲町　岡村庄助
下谷御成道　紙屋徳八
同　英文藏
通旗籠町　平野屋平助
本石町十軒店　梅屋伊三郎

書林

Kitabkaji

36